



# おてだま

OTEDAMA CLUB IN JAPAN

NO.

# 15

2002. 3 Spring

## 特集1 全国お手玉遊び大会

2~3

●第10回記念全国お手玉遊び大会

・大会の様子

・十周年記念祝賀会

・前夜祭

・文芸部へ贈りして(各支部からの声)

●次回「福大会」について



## 特集2 支部便り

4~5

●宮支部で活発なお手玉普及行事

・とことんのお手玉の会

・10年のあみ「記念の集い」

●藤田石根会長のもと新体制に

●藤田会長が「朝日新聞」日曜版で紹介される

日本の「お手玉の



●各地で「お手玉教室」を開く……7

- ・第3回野分伝承遊び国際大会
- ・ならまちわらべうたフェスタ
- ・小野小学校(松山市)
- ・全国ボランティア研究大会出松山
- ・「てれこじ」(NHK松山)が
- ・お手玉遊び(豊岡小学校)
- ・榎井市の
- ・「わがまちづくりシンポジウム」
- ・玉川町お手玉遊び大会
- ・多喜浜小学校「お手玉遊び教室」

●お知らせ……………8

・英語版「OTEDAMA」の発行決まる(LA)  
 ・文芸堂とLAの出版社HELIANが契約を結ぶ  
 ・川内町(愛媛県)に「えひめ支部」が誕生

# 第10回記念全国お手玉遊び大会

## 27都道府県とSDから850人が参加!



▲ オープニングのお手玉歌

▲ 中原先生の講演会

選手宣誓 ▶



### 競技のほか祝賀会や講演会や前夜祭など

第10回記念全国お手玉遊び大会は、日本のお手玉の会と実行委員会の共同主催で、平成13年8月8日(土)と9日(日)両日、新居浜市のリーガロイヤルホテル新居浜で開催された。今回は、10年の節目に当たるとして記念大会として行われ、競技大会のほか祝賀会、記念講演会、前夜祭などが催された。

参加者は、北海道から熊本県まで二七都道府県とアメリカのサンディエゴなどから、八五〇人を数えた。今回の大会から全国各地での持ち回り開催となることもあって、新居浜市民の関心も高く、会場は八千人の観衆でにぎわった。

競技は、個人戦、団体戦ともに接戦を展開し、会場を多めに沸かせた。団体戦では、琴原舞会舞組(松山)が優勝した。閉会式では、今回新調した特大の「大会旗」が、次回開催地の熊本に引き渡された。



お手玉グッズや物産の即売も人気



第11回は火の国熊本へどうぞ!



大きな大会旗が熊本の代表へ

### 色とりどりの浴衣でお手玉歌のメドレー

大会は、新居浜少年少女合唱団のお手玉歌で幕を明けた。色とりどりの浴衣を着た団員が、お手玉をゆりながらの合唱に、会場からは大きな拍手と、「かわいい」との声がかけられていた。閉会式では、まず前年度優勝の「熊本おじゃめの会」ありあけ「チーム」から、優勝旗の返還があり、武田信之大会長のあいさつ、佐々木龍新居浜市長の歓迎のことばがあり、「ご来賓を代表して加戸守行愛媛県知事(代読)渡部誠彦西条地方局長」と、小野晋也衆議院議員から祝辞が述べられた。

ご来賓の紹介のあと、祝電の披露があった。ロサンゼルス市の杉葉子顧問からの祝電、「遠くアメリカから大会のご盛會を祈っています。このたび、ロサンゼルスに支部が誕生する運びとなりました」との紹介に、会場からは大きな歓声が沸き起こった。つづいて、愛媛県外から参加した北海道から熊本県までの26都道府県と、サンディエゴ(アメリカ)からの参加者が紹介され、会場から暖かい歓迎の拍手が贈られた。

競技の開始に先立ち、坪井利一郎競技委員長・審判長から競技上の注意事項が説明された。引き続き、前年度優勝チームが選手宣誓を行い、競技が開始された。

### 実力伯仲で個人戦は各種目で熱戦を展開

個人戦は、小学生の部、一般の部に分かれて行われた。回を追って技術は向上し、どの種目も実力伯仲で熱戦が展開された。決着のつかない種目では、頭には四角のお手玉を載せて競技する種目もあった。

応援団からは、一つひとつの対戦に歓声やため息が飛び交いながらも、笑顔いっぱいのはしゃぎが絶えなかった。

個人戦・小学生の部  
▽片手二個(優勝)・西本益(熊本)、準優勝・五藤真吾(新居浜)、敢闘賞・曾根芳美(新居浜)

個人戦・一般の部  
▽片手二個(優勝)・秋月久幸(新居浜)、準優勝・久門祐子(新居浜)、敢闘賞・緒方アケミ(熊本県御船)

▽両手投げ三個(優勝)・杉村美智子(大平田)、準優勝・久門祐子、敢闘賞・湯本千秋(徳島県勝浦)

▽両手三個(優勝)・今村シメ子(新居浜)、準優勝・杉村美智子、敢闘賞・川元富美子(具)▽両手四個(優勝)・米納幸子(熊本県益城)、準優勝・西本玲子(熊本)、敢闘賞・渡部早希(松山)

### 新居浜少年少女合唱団と琴扇舞会舞組が

団体戦も、小学生の部、一般の部に分かれて行われた。かわいい声援の中で盛り上がった小学生の部。一般の部は、連続優勝を目指し「ありあけ」チーム(熊本)で、優勝奪回をねらう「ならまらわらべ」ならまらわらべがフェス



ターチーム(奈良)など強豪ぞろい。どの試合も、熱のこもった対戦となった。抜戦を制したのは、四度の優勝経験を持つ「牙留舞会組」チーム(松山)だった。

▽優勝・新居浜少年少女合唱団(新居浜)、準優勝・あり優勝・ワンピース(伊予三島)、敢闘賞・志波・ペルボン&あかね(新居浜)、あそびじょくトムソーヤ(同)

▽団体戦・一般の部  
▽優勝・琴舞舞会組(松山)、準優勝・ありあけ(熊本)、敢闘賞・志波組A(愛媛県松山)、ゆりかもめ(新居浜)

## 飛び入りのパフォー マンスも人気を呼ぶ

従来には、パフォーマンスとして、大会ではおなじみとなった「肥後ちよんがけごま」の坂下一郎(大庄)と池田ヒサ子(同)に、今年も肥後教育大学の山本真美教授(鳴門)が加わって、見事な技が披露された。

りゅうごまの名手・鈴木義樹さん(伊予三島)の飛び入りもあり、こま回しの競演となり観衆の人気を呼んでいた。これらの名手は、いろいろな遊びコーナーでも指導し、こま回しにたくさんの方が挑戦した。

また、伊藤賢治さん(新居浜)の折り紙も、すっかり定着し、終日、お子さんたちや、全国から参加の多くの人が参加していた。

おもしろな図書展やポポポさんが担当したお手玉遊園地も、近隣市町村からの来訪者など

でにぎわった。世界と日本のお手玉展示、お手玉の作り方教室、和紙人形作家・大西妙子さんの人形展なども関心が高かった。

また、今回のお手玉グッズや地域の物産即売も大好評。とくに京都の城陽市から、お茶の淹れた園さんの特別参加があり、お茶の淹れ方の指導に人気を集まり、銘茶や特製の抹茶入りアイスクリームも販売していた。国際ソロプチミスト新居浜みなみさんが開いたお茶座にも、多くの人が集まっていた。

住田谷支部(東京)からは、小泉珠子支部長が仲間と一緒に参加し、「ミヤンマーへ自転車を送る」運動への募金を呼びかけた。お手玉大使の神原タニエさん(九二歳・大分)からは、一千個のお手玉の寄贈があった。これを展示して、参加者に見てもらった。

## 拍手のなか大会旗が 本部から熊本へ渡る

閉会式では、次回開催地への大会旗の伝達が行われた。今回新調されたタテ二メートル、ヨコ三メートルという特大の大会旗が、本部役員六人でメインステージに運び、熊本の代表六人に引き渡された。次回開催地を代表して、留水カワミ熊本おじやめの会長から、次のようないきさつがあった。

「来年の大会から、初めて新居浜市を離れ、全国持ち回り開催となります。その第一号として、次の国熊本で開催いただきますことを、大変ありがたく先案に思っております。本部のご指導をいただきながら、熊本らしい内容を盛り

り込んだ大会を企画して、皆様をお迎えしたいと考えております。阿蘇をはじめたくさんの方の観光もご期待ください。どうぞ、皆様お誘い合わせで、来年は熊本にお出かけください。お待ちいたしております。」

## 10周年記念祝賀会や前夜祭など多彩に

### 中原医学博士が「お手玉と健康」について講演

第10回記念全国お手玉遊び大会に先立ち、9月8日(土)、日本のお手玉の会創立10周年記念式典と前夜祭、交流会が、リーガロイヤルホテル新居浜で開催され、大会参加者や関係者など一五〇人が参加した。

祝賀会では、まず武田会長から、平成4年9月19日の日本のお手玉の会設立からの10周年の経緯報告と各方面からのご協力、ご支援に対するお礼を述べた。

その中で、設立以来、長年にわたり日本のお手玉の会の運営や、全国お手玉遊び大会の開催に当たり、物心両面にわたって多大のご援助、ご協賛をいただいた藤田清株式会社藤田製作所会長ならびに藤田石根日本のお手玉の会副会長に、お礼の言葉を述べるとともに、両氏に対し、日本のお手玉の会を代表して宮中孝子、天野征郎両副会長から、お礼の花束が贈られた。

ついで、佐々木龍新居浜市長、小野香也県議議員から祝辞が送られたあと、VTRで経過報告が行われた。

式典の後、記念講演会に移り、N.T.T.西日本九州病院産婦人科部長・医学博士の中原和彦様「日本のお手玉の会顧問・熊本おじやめの会代表」から、「お手玉はヘルスアートのチャレンジオン・病気の出口より、健康の入り口へ」と題した講演があった。

「お手玉は、事務所や病室などどこでも、健康者ももとより、車椅子で入れぬ人でも、だれでもできる遊びです。回りに迷惑をかけず、じやまにもなりません。回りに迷惑をかけず、にぎやかに遊べます。お手玉をしていると、音節がしやきつとしますし、楽しんでいっていると、体の筋いところ、痛んでいることなども忘れることが出来ます。右手と左手とを交互に、バラ

最後に、天野征郎大会実行委員長から閉会のあいさつがあり、ついでに安藤豊新居浜少年少女合唱団団長の指揮により、会場の選手、観衆、スタッフの全員で「赤とんぼ」を合唱し、第10回記念大会を終了した。

又よく使うことで、右脳や左脳への刺激にもなり、体にとってもよいバランス運動になります。病気の治療をする前に、自分自身でできる健康への入り口を探しましょう。それには、お手玉が最良の遊びといえるでしょう。」

と、お手玉遊びの実技も示しながら、おてだまあそびと健康について、やさしくわかりやすく話されました。この講演の内容は、平成14年5月ごろ、一冊の本にまとめられ、海鳥社(福岡市)から出版されることになっている。

講演の後の前夜祭では、祝杯をあげたあと、食事しながら、全国から参加している各支部の活動報告や大会に臨む意気込みなどが、次ぎつぎとユーモラスに発表され、会場は笑顔と歓声に包まれ、なごやかな雰囲気となった。

また、肥後ちよんがけごまや、お手玉の妙技、お手玉演舞などの披露もあった。中でも北海道から参加した、アメリカ人女性の英語教師ケリー・ロバートソンさんのお手玉遊びの披露は、たくさんの方の拍手をもらっていた。



▲ 藤田清様に感謝の花束  
▶ 前夜祭でのロバートソンさん  
◀ 前夜祭はなごやかに

## 節目の大会に参加して

ひろしまお手玉の会  
吉井 三千子

竹原の町並みを通り抜け、のどかな船旅で瀬戸内海を渡る。新居浜での大会は10回を数え、今大会で終わりと聞く、淋しくもあり残念な思いが胸裏を走る。(本部よりから10回で終わるのではなく、5~6年後の大会には、また新居浜に帰ってきます。その間は、県外での開催となります。)

大会前夜、中原先生の記念講演は、お手玉がお手玉遊びで終わらない、将来の大きなテーマの発見であった。そして、故池見先生の名前を耳にする時、より一層の思いが深まる。交流会のステージを飾るお手玉演舞、目を見張るばかりの感動である。

新居浜での10回の大会で得た多くの事は、次回10回大会開催の地、熊本からの第一歩へと希望をつなぐ。伝えよう輝く未来へ「お・て・だ・ま」を



# めざせ！お手玉「健康芸術」

「健康」をテーマに  
熊本で全国お手玉遊び大会  
現地で大会の打ち合わせ



## 【第11回全国お手玉遊び大会の概要】

- \*名称: 「第11回全国お手玉遊び熊本大会」
- \*テーマ: 「めざせ！お手玉「健康芸術」」
- \*大会: 平成14年9月1日(日)  
上益城郡益城町「益城町総合体育館」
- \*前夜祭: 平成14年8月31日(土)  
国民年金総合健康センター  
「くまもとエミナール」
- \*問い合わせ先  
日本お手玉の会  
〒792-0311 愛媛県新居浜市庄内町1-13-14  
TEL 0897-36-0600 FAX 0897-36-0644  
URL: <http://www.shikoku.ne.jp/~otedomai/>  
e-mail: [tamechan@otedomai.shikoku.ne.jp](mailto:tamechan@otedomai.shikoku.ne.jp)
- 熊本おじゃめの会  
〒861-2233 熊本県上益城郡益城町惣領1212-1  
TEL 066-289-8433 FAX 096-299-9433

第11回全国お手玉遊び大会は、国内持ち回り開催の第一号として、熊本で行われる。その第一回の本部と熊本おじゃめの会との打ち合わせが、平成14年1月26、27日の両日、熊本で行われた。

26日は、熊本市の火の国ハイイツで、本部から藤田会長ら五人、現地からは中原和彦代表、福永カツミ会長ら六人、それに益城町の関係者が参加した。ここでは、全体構、テーマ、運営方法、役割分担などを話し合われた。

大会名は「第11回全国お手玉遊び熊本大会」、テーマは「めざせ！お手玉「健康芸術」」に、開催は、前夜祭が8月31日(土)、本番の大会は9月1日(日)と決まった。

27日は、全国大会の会場となる上益城郡益城町の益城町総合体育館で行われ、前日の協議事項と、今後のスケジュールを確認し、臨設見学を行った。

今回の確認事項の大幅は上記のとおり。



火の国ハイイツで行われた第1回打ち合わせ

# 文化の交流で世界に平和と幸せを

同時多発テロ後に  
ケリー・ロバートソンから手紙

第10回記念全国お手玉遊び大会に、北海道河野西部芽室町から参加した、アメリカ人の英語教師、ケリー・ロバートソンさんから、お礼の手紙が届いた。

ロバートソンさんの手紙は少し遅れて届いた。遅れた理由は、9月9日の大会直後の9月11日に起きた「同時多発テロ」が原因でした。文面は次のとおりです。

そこには、アメリカ人としてのロバートソンさんの苦悩が綴られています。

机に座って、新居浜のことを書こうとしても書けない。これで五回目。先週、アメリカで起きた、恐ろしく悲しい同時多発テロ事件で私の頭はいっぱい。他のことは何も考えられない。新居浜ではあんなに楽しかったのに。でも、とてもすばらしい体験をさせてもらった新居浜の人たちに、お礼をいわなくては。

「新居浜のみなさん、ありがとう！」

国際競争の今こそ、異なる文化を持つ人たちと交流し、異なる文化を学ぶことの重要性を思っておこしています。同じ経験を共有すれば、偏見を除くことができます。国と国をへだてる誤解を取り除くことができるのではないのでしょうか。



個人帳で活躍するケリー・ロバートソンさん

新居浜での私の経験は、小さくても文化交流の大切さを実感させてくれました。新居浜の人たちから日本文化について学べた私は幸運でした。お手玉の伝統について、押染について学びました。「それぞれ、教えてくださったみなさん、ありがとう。」

私にとって、新しい知識以上に大切なことは、今まで知らなかった人たちと知りあい、その人々から優しさを得たことです。先週のテロ事件で、世界には私の祖国アメリカを憎んでいる人がいることに気づいて、心が痛んでいます。同時に、日本の人々から私を受けている優しさに、今まで以上に感謝しています。

私のすばらしい体験をあげてみましょう。

- 一、ホテルの食堂やロビーで、みなさんと一緒にしたお手玉。
- 二、私も、周りの人も一緒にお手玉をしながらか、大笑いしたこと。ずっと元気になった感じ。
- 三、楽しい雰囲気、世代を超えてお手玉を競ったこと。
- 四、お手玉のマニキュアル・ビデオに出ていたお手玉の会の人たちと会えたこと。
- 五、お手玉の新しい技術を知ったこと。(中略)

来年も日本にすることができたら、熊本の大いに参加するつもりです。とても楽しみです。最後に、この世界競争が最善の方法で解決して、それぞれの国、そして世界中が今よりも平和になることを望みます。

皆さんの平和と幸せをお祈りします。

いつの日か、また、お会いしましょう。

(日本語訳、

天野由子さん)



# 藤田石根会長のもと新体制に

## 役員改選を行い新たに直前会長を選任

日本のお手玉の会は、役員改選期を迎え1月23日の役員会で、新体制を決めた。藤田信之会長が退任し、新会長には藤田石根前副会長が就任した。後任の副会長には、田原節子前理事が選ばれた。また、新しく直前会長の役職が設けられ、武田信之前会長がこれに当選することになった。

## ぬくもりと文化の香りを吹き込みながら進む

日本のお手玉の会  
会長 藤田石根



春とは申せ、まだまだ寒さが身に凍みるこの頃です。皆様におかれましては、お健やかに過ごされておられることと、お慶び申し上げます。

この度、誠に未熟ながら「日本のお手玉の会」会長に就任させていただきました。

直前会長 武田信之

このたび、私は、会長を退き、藤田石根前副会長に会長を引き継ぎました。会の創設から10年間にわたり、副会長を3年、会長を7年担当させていただきました。

その間、会員の皆様はもとより、株式会社藤田製作所様、各ボランティア団体や企業の皆様、市民の皆様のご支援、ご協力をいただき、大役をまっとうできました。心から厚くお礼を申し上げます。

10年間は、出会いと感動の連続でした。10回の全国お手玉遊び大会は、それぞれに思い出があります。国内での国際大会、全国規模の各種大会への参加はもとより、ハワイやロサンゼルスへの7回の海外遠征など、充実した日々を送ることができ、多くのことを学び、経験しました。感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。

藤田会長の新体制にも、これまで以上のご支援、ご協力をお願いいたします。幸い、私は直前会長の役をいただきました。今後も微力ながら、お手玉の普及に関わらせていただきます。よろしくお願いたします。

消費者団体自主企画学習会として行ったが、鳥取県内をはじめ兵庫、千葉など県外からの参加もあり、二五〇人で会場を埋め尽くした。

会場の設営にあたっては、案内看板からお手玉の花の飾りつけ、古い着物の展示にいたるまで、すべて会員の手づくりだった。その点が、参加者から「会場が、とても温かい雰囲気になっていて」と好評だった。

## 遊びの体験やシンポジウムなど

まず、藤田副会長の、あいさつを兼ねた、10年の歩みの紹介で開会。午前中は、参加者全員で、お手玉遊びを体験。とっとりのお手玉の会の「お手玉遊び認定基準」二〇歳から一級、特級）を紹介。つづいて、鳥取県内に伝わる「寄せ玉遊び」を披露。「タイムに挑戦」では、片

## 「10年の歩み」を記念してお手玉遊びの集い

とっりのお手玉の会



とっりのお手玉の会は、10年の歩みを記念して、「第4回お手玉遊びの集い」を、鳥取県の芳原をいただき、2月10日、鳥取県東伯耆郡野町町宮国民宿舎水明荘で開催した。集いは、鳥取県の

## 「心動かす魔力に魅せられて」

(悠・遊・人)

藤田石根会長が「朝日新聞」日曜版に

朝日新聞の平成二十三年一月二十五日付け「日曜版」の「悠・遊・人」に、藤田石根副会長が取り上げられた。記事は、「心動かす魔力に魅せられて」とのタイトルで、藤田副会長が話した、お手玉の歴史や魅力、普及活動などが、興味深く綴られている。(写真提供) その中に、「遊びや歴史を伝える写真入りの本『お手玉』の英語版が近く出る」との紹介があった。この記事で、全国から六〇件を超える問い合わせがあり、写真絵本「お手玉」も五〇冊を超える注文が寄せられ、英語版の予約もあった。

## 悠・遊・人

心動かす魔力に魅せられて

「遊びや歴史を伝える写真入りの本『お手玉』の英語版が近く出る」との紹介があった。この記事で、全国から六〇件を超える問い合わせがあり、写真絵本「お手玉」も五〇冊を超える注文が寄せられ、英語版の予約もあった。

インタビュー 藤田石根さん(田)





# 「お手玉ボランテア」

松山市立小野中学校



愛媛県松山市の東に位置し、全校生徒五七六名の中学校です。ボランテア活動や環境教育に力を入れて、昨年は第4回ブルデンシャルボランテア・アワードで全国賞を受賞しました。

ンテア委員を中心に特別養護老人ホーム「梅の里」を訪問し、お年寄りとの交流を実際に体験を重ねておられます。生徒のこうした活動をすつと指導されている、伊藤祐三先生は、次のように語っておられます。「お手玉をしている時の生徒の表情は、とても明るいです。びっくりにしています。すばらしい効用ですね。」

## 舞台やお手玉遊びの交流会に飛び入り

第9回ならまちわらべつたフェスタで市民と交流  
 まちわらべつたフェスタが平成13年10月21日(日)にならまち一帯で行われた。日本のお手玉の会から五人が参加し、各会場を回り、市民との交流を深めた。



## 「つた」NHK(松山放送局)に出演

昨年10月16日に放映されたNHK松山放送局の「つた」は、たくさんの方に観ていただきました。

取材撮影当日は、テツエイトモさんがギターを抱えて、日本のお手玉の会へやってきました。「懐かしい昔遊び」ということで、お手玉のまち新居浜へこられました。歴史や遊びを一緒に楽しみ、お手玉といえども奥の深さに感心され、おもしろく紹介していただきました。



当日のステージ発表では、生徒さんのお手玉実演や、会場からも先生や保護者、地域のお年寄りにも呼びかける場面もありました。なんともほほえましく、会場の生徒達は全員大拍手です。格別、親近感を思えた様子。会場は熱気が漂って、お手玉のまちならず、笑顔の交流と温かさ、楽しさが伝わって来ました。また、ボラ

のまま、惣開小学校の「お手玉を作ろう」という授業に、一緒に参加されました。中には初めて針をもつ生徒さんが多く、悲観苦悶して、自分のお手玉が出来上がった時は、本当にうれしそうでした。テツエイトモさんも生徒の輪の中に入って、一緒に縫ったり、歌いながらコミュニケーションをしたりと、大変盛り上がりました。



「四〇〇人が松山市に集い学習と交流を深める」  
 第4回全国ボランテア学習研究フォーラム愛媛大会  
 第4回全国ボランテア学習研究フォーラム愛媛大会が、同実行委員会(実行委員長・齋藤幸治)の主催で、平成13年11月9日(金)から11日(日)にかけて、松山市の総合福祉センターとハーモニープラザで行われた。今回は、「ボランテアがつなぐ学びのネットワーク」子育て共同会」をテーマに開かれた。

大会には、全国から四〇〇人を超える人たちが参加し、記念シンポジウムをはじめ、九つのテーマ別分科会、自由研究発表、六つのミニシンポジウム、四つのワークショップ、二つの巻しのフィールドワークなどで、学習と交流を深めた。

にもできる！特技をいかしてボランテア「」に参加し、武田信之会長が「お手玉遊びによる世代交流・国際交流」というテーマで発表した。

## 19か国が参加して遊びの交流

第3回野外伝承遊び国際大会が東京で  
 第3回野外伝承遊び国際大会が、社団法人青少年交友協会・野外文化研究所の主催で、平成13年11月3日(土)、東京・代々木公園陸上競技場で行われた。「遊びから学ぶ世界の文化」をスローガンに、世界一九カ国が参加。日本のお手玉の会も、本部から五人と東京支部(世田谷)の皆さんのご協力を得て、三回連続の参加を果たした。

今回も、各国ごとに伝承遊びを紹介するとともに、日本からは、こま、お手玉、石あて、石蹴り、竹とんぼが参加し、遊び道具の作り方や、遊び方を紹介した。お手玉のテントには、日本の子どもたちをはじめ、各国の人たちがたくさん詰めかけた。また、日本のお手玉の会員も、東京をはじめ長野、大牟田、水俣、その他から応援にきてくれた。

お手玉競技大会は、小学生、中学生、大人、親子の部の四つに分かれ、日本のお手玉の会の指導で行われた。途中から、あいにくの雨となったが、出場者は雨をもととせず、最後まで元気に競技した。成績は次ぎのとおり。

順位	小学生の部	中学生の部	大人の部	親子の部
1	井原兼吾	徳増玲太郎	小田原亮宏	藤田石根
2	谷田部夏美	杉本真美	杉村美智子	磯高若菜
3	小澤尚子	田中雄大	王 隼偉	磯高若菜

参加国は、日本をはじめトルコ、タイ、イス、グアテマラ、韓国、ウズベキスタン、インド、インドネシア、イラン、イギリス、エチオピア、中国、メキシコ、フィリピン、フィリピン、ナイジェリア、ルーマニア、ポーランドの一九カ国

# ★お知らせ★

◆ロスから英語版「OTEDAMA」の発行決まる 文溪堂とLAの出版社 HEIAN が契約を結ぶ

～ 3月の発行を前に現地の新聞で広告を開始～

Cultural News January 2002

**"Otedama" & "Pumpkin Patch"**  
New Titles by Heian International

Otedama: Traditional Japanese Juggling Toys and Games  
Written by Dorothea Bruck in cooperation with Heian International

Now 300, 4 x 107, 22 pages  
ISBN 0-92144-120-5, 11.95  
Publishing Date: February 2002

Each of our juggling articles shows us juggling in a new way! This is the perfect Christmas present for all of us!

Whether it is about Japanese juggling, the many aspects of this variety of juggling or about juggling in general.

The book gives 42 juggling tricks, moves and facts, with step-by-step instructions on how to learn them. They are accompanied by numerous photographs of juggling and are juggling from beginning to advanced level.

Research by Dorothea Bruck on juggling in the past and present. From the 12th century to the 19th century, the book shows the history of juggling in Japan and the world. The book is available in Japanese, English, French, German, Italian, Spanish, and Chinese. The book is available in Japanese, English, French, German, Italian, Spanish, and Chinese. The book is available in Japanese, English, French, German, Italian, Spanish, and Chinese.

The Pumpkin Patch  
A Traditional Buddhist Tale

写真絵本「お手玉」を、日本のお手玉の会の監修で平成9年に、文溪堂から出版した。お手玉遊びの教科書として、国内では好評を得て、現在12刷目に入っている。海外遠征などを繰り返すなかで、英語版の希望が多く寄せられていた。

また、会としても英語版を視野に入れて発行してきたし、「オテダマ」を世界共通語にしたいとの願いを持っていた。

それが今回、ロサンゼルス出版社から、英語版を

出版することになり、日本の出版社の文溪堂と現地の出版社 HEIAN との間で契約を締結した。これにより、今年の3月に英語版「OTEDAMA」が実現することになった。

すでに、ロスで発行されている「カルチュラル・ニュース」の今年の1月号・2月号に、英語版「OTEDAMA」の広告が掲載（写真）され、予約の受付けが始まった。なお、この英語版は、HEIANが日本を除く英語圏の販売を担当し、日本国内の販売権は日本のお手玉の会が所有することになっている。



明るく・活き活きした方たちばかりです。発会式も、終始笑いの絶えない会だったと報告がありました。今後の「いづみ支部」の活躍が期待されます。

当日は、本部から今村シメ子さん（師範代）と村尾杉代さん（理事）が立ち合われ、17号の支部認定証は今村さんから、代表者の前田千鶴子さんに渡されました。えひめ支部のメンバーは、一四人（設立当時）で、レクリエーション仲間を中心に設立され、



支部17号「いづみ支部」誕生



発行・編集

日本のお手玉の会 会報編集委員会

〒792-0811 愛媛県新居浜市庄内町1-13-14

TEL/0897-36-0600・FAX/0897-35-0614

E-mail: tamachan@otedama.shikoku.ne.jp

ホームページ  
http://www.shikoku.ne.jp/otedama/